

ふれあい通信

— 平成 30 年 春 号 —

● 発行元 ●

日本赤十字社富山県支部受託
富山県立乳児院
富山市牛島本町2丁目1番38号
電話 076-432-8137
FAX 076-432-8238

みんなの思い出 ひなまつり

3月1日、ひな祭り会をしました。今年もみんなのパジャマやエプロンなどを作ってくださいるボランティアさんをお招きして、一緒に桜餅をいただいたり、ひな祭りの歌や踊りでたくさん遊んであっという間の楽しい時間を過ごしました。ふれあいの時間には子どもたちの「あそぼ!!」の声や「あかりをつましょ、ぼんぼりに…」とボランティアさんとの合唱が聞こえていました。

遊戯室に並んだおひなさまたちもみんなの賑やかな声に包まれて微笑みながら、子どもたちの健やかな成長を見守って下さるよう感じました。



先日、2歳児さん3名と職員2名でバスに乗って富山駅方面に3時間程度の外出をしました。乳児院では、不定期ですが、毎月1、2回ペースで幼児さんがこのようなお出かけ体験を行っています。私たちは「ふれあい体験」と呼んでいます。バスに乗ったり、お店の棚に並んだ生鮮食品や商品を眺めておやつを選んだり、本屋さんでたくさん本のなかからお気に入りを探したり、初めて会った子どもたちと子ども広場で遊んだり…



「色々な体験の積み重ね…」

家庭では普通に行っていることも、乳児院の子どもたちのワクワクやドキドキがたくさん湧き上がっているようです。その「ふれあい体験」で、出かけた場所や乗り物、体験したことなどを一枚の用紙にまとめてお出かけMAPにして貼りだして見ました。お出かけした子どもたちは思い出しながら話をし、お出かけしなかった子どもからは質問が出たりと子どもたちの興味や話題を引き出し、好評でした。子どもたちにはいろいろな体験を積む中で社会性や生活力を養ってほしいと思っています。それが「ふれあい体験」の目標です。今はちよっと特別なことが、日常に近づくように努めていきたいと思っています。

春の自然を見つけれ

今年度は12名の子どもたちでスタートしました。

乳児院の周辺には、環水公園、富山県美術館、神通川桜堤緑地とお散歩できる場所が多くあります。積雪の多かった冬期間はご無沙汰でしたが、春になり天気の良い日は、職員と手を繋いで散歩に出かけることが多くなりました。

4月のある日、桜堤緑地の満開の桜を見つけた子どもたちが、いつもの階段には行かず、桜の木を目指して土手をまっすぐに上がり始めました。堤防の桜の枝はたくさん花々が垂れて、きつと触れると思ったのでしょうか、みんな手を思いっきり伸ばして花に触れようと何度も挑戦していました。こんな身近な場所で体感できる自然にたくさん触れさせてあげたいと思いました。



行事



心かならぬ喜びあふむにこれこそだ。

1月

● 田村 あいさん (神奈川県)

● 長瀬 美咲さん (東京都)

● S・Hさん (富山県)

2月

● 小竹 倫世さん (富山県)

● 佐々木 英理さん (秋田県)

● 三枝 沙織さん (東京都)

● 稲吉 庸子さん (東京都)

● 学校法人 全人学園

● 新庄幼稚園さん (富山県)

3月

● 中村 まりさん (神奈川県)

● 三枝 沙織さん (東京都)

● 株式会社富山技販

● 代表取締役 松井 勝馬さん (富山県)

● 長瀬 美咲さん (東京都)

日本赤十字社

● 富山県支部受付

4月

高原 安晴さん

温井 範子さん

9月

一般財団法人 浅田慈善学園さん

1月

本間 一正さん

2月

ホットトットクラブ 京井 克幸さん

「家庭がはぐくむ笑顔」

富山県では約80組のご家族が里親登録されています。里親家庭の子育てや思いを、里親さんの言葉で記していただきました。

● その18

いろいろな年代の子どもたちを受け入れてきました。幼少期からの関わりであれば、肌の触れ合いといいますか、一緒にお風呂に入ったり、添寝をしたり、抱きかかえて寄り添う関係を年月をかけて、たっぷり重ねていくことで気持ち伝わるように感じます。

中高生になってからの付き合いになると、まずは出会った子どもをリスペクト(尊重)して向かい合い、好きな食べ物やご飯を準備し、お弁当を

持たせることから始めます。それでも中々、話しもかみ合わず、心が通じない。何を考えているのか？何が好きなかわからないと感じてしまうことがあります。

これまでの子どもも育った世界があり、それに現在の子どもたちはネット社会で違う自分を表現する方法を知っています。どうしても自分が傷つかない方法を選ぶようです。でも、私は人と人が衝突したりしていがみ合ったり、でも謝ったり、許したり、認め合う作業は大事だと思います。

里親が子どもたちに関われる期間に限りがあります。私たちは、一時的ですが、子どもの居場所になります。私たちと一緒に過ごした時を

振り返る日が、子どもにきつと訪れると信じて、今できることを諦めないで続けています。

そして、子どもたちはいつか自立します。成人後に向けても、里親以外に信頼できる支援者を見つけてあげる必要があります。

里親家庭は特殊な世界の出来事ではありません。様々な成育のあり方が承認され、子どもは社会の宝として、生まれてきたからには笑顔で自分の素質を十分生かせる人生を味わって生活して欲しいです。

親としてこの気持ちを共有し、子どもたちの最善の利益のために一緒に子育てを楽しんでいきましょう。



富山県立乳児院病児保育室『おひさま』は、体調不良のお子様をお父さんお母さんに代わって、家庭的な雰囲気の中で保育します。

～富山県立乳児院 “病児保育室『おひさま』だより”～

「元気にな～れ!!」

新緑の青葉がすがすがしさを感じる季節になりました。

4月・5月は初めての集団生活を経験することども達が、緊張や疲れから体調を崩されることの多くなる時期です。

病児病後児保育室では、一人一人の体調にあわせて保育・看護を行えるよう今年度も努めていきます。



スタッフ日誌より

- 富山県病児・病後児保育研修会を受講しました。富山県における病児保育の現状や小児科医師から小児特有の疾患の理解と対応について学ぶことが出来ました。
- こども達を安全に預かる為にもこのような研修に継続して参加し、ステップアップしていくことの必要性を強く感じました。